

高杉 學 (東京)



花のある窓 (ニュルンベルグ)
(1986年) F100



緑風エルベ河畔 (2003) F100

「花のある窓」は、今から50年ほど前にドイツ北部の街、ニュルンベルグにひと夏滞在した折の経験、印象に残ったものを絵にした。

ニュルンベルグの街は教会、オペラハウス、城跡、住宅それぞれが中世以降の姿をそのまま残して今日に至っている。地続きのヨーロッパの街の中には戦争が繰り返される中から変化し、独自の文化を生み出してきた。

しかし、当時のニュルンベルグの景色は古来の文化と歴史を示しており、何としても絵に残しておきたいと思った。また、各家庭の窓辺にそれぞれ花を育てて、通る人の目を楽しませている姿は当時の日本の文化にはないものと、新鮮な印象を持った。

「緑風エルベ河畔」は、第2次世界大戦の折、大きな被害を受けたエルベ河流域にあるドイツ北部の街、ドレスデンを描いた。戦火による被害はひどく、多くの建物の石材なども黒く焼き焦がされ、残されていたという。

戦後、街の復興の際には、これらの残骸を使って、平和への願いを後世に伝えるものとしている。

訪れた時(2001年)、エルベ河は静かに流れ、緑豊かな木々、戦禍の歴史を示す建造物、これらの間を6月の風が流れていた。

第16回蒼騎展 (1976年) 会員推挙
審査委員 文部科学大臣奨励賞